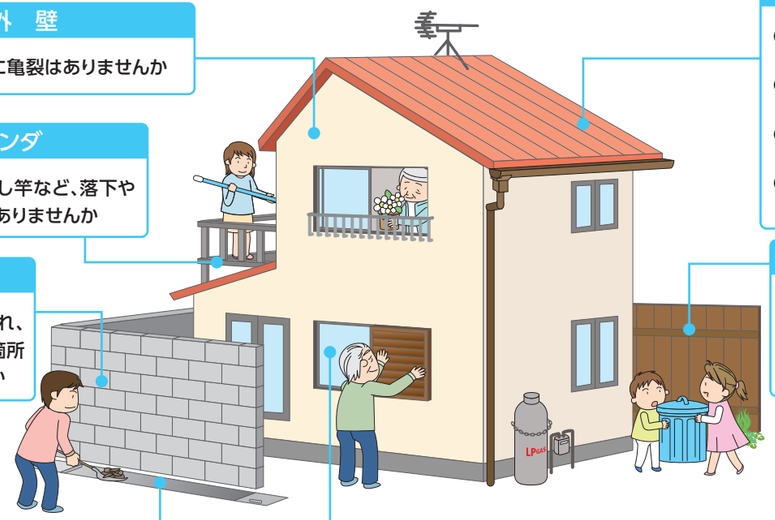
風水害編

風水害への備え

台風や大雨による被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



外　壁
- ●モルタルの壁に亀裂はありませんか

ベランダ
- ●植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

ブロック
- ●傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

屋根・とい
- ●不安定なアンテナはありませんか
- ●トタンがめくれていませんか
- ●瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
- ●雨どいにゴミや木の葉は溜まっていませんか

板　塀
- ●板塀に腐りや浮きはありませんか
- ●板塀に支柱はありますか

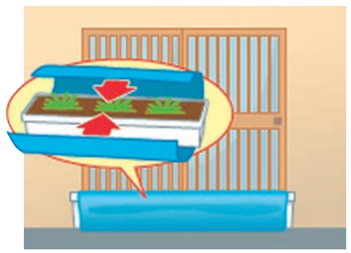
排水溝
- ●側溝や雨水ますにゴミや土砂はありませんか

窓
- ●窓枠のがたつきはありませんか
- ●雨戸にがたつきはありませんか

その他
- ●ガスボンベは固定していますか
- ●商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- ●ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- ●庭木には添え木をしていますか
- ●窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

家庭でできる簡易水防

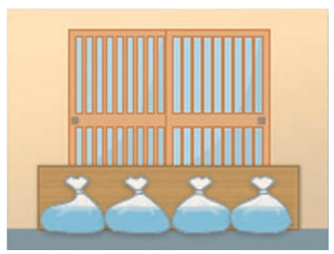
浸水が浅い場合には、土のう（無い場合は水のう）を設置することで、水が建物へ侵入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板（はしごやテーブルでも可）などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておくと、より効果的です。



簡易水防工法例❶

プランター＋ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。

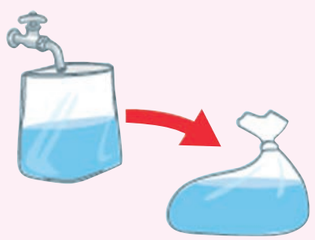


簡易水防工法例❷

簡易水のう＋止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入り口に設置し、浸水を防ぎます。

簡易水のう の作り方



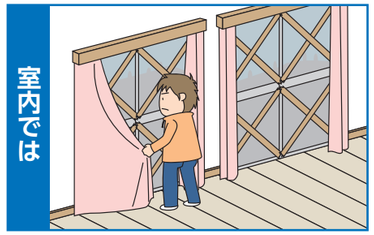
家庭で使用しているごみ袋（40リットル程度の容量）を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

風が強いとき・大雨のとき、どうすればいいのか

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。

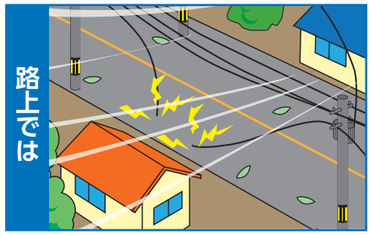
雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、市区町村などからの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき



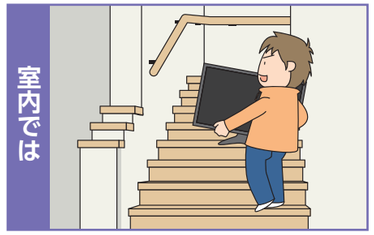
- ●風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- ●外側から板でふさいだり、内側からガムテープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。

- ●看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。



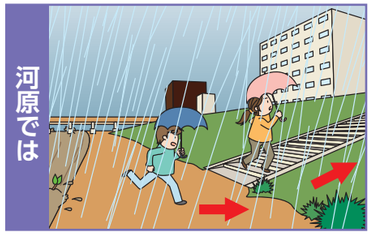
- ●電線が切れたり、瓦や物が飛んでくる危険があるので、浸水や土砂災害の危険が低ければ、無理に避難せず屋内にとどまりましょう。
- ●切れた電線には、絶対に触れないようにしましょう。

大雨のとき



- ●床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- ●地下には避難しないようにしましょう。

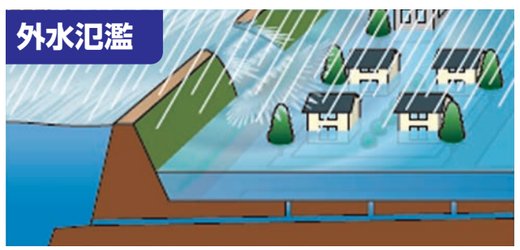
- ●豪雨で視界が悪くなると非常に危険ですあせらずに高台に移動しましょう。
- ●浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。



- ●急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。
- ●今いる場所で雨が降っていなくてもサイレンなどの警報が聞こえたら、すぐ退避しましょう。

内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫（内水氾濫）と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫（外水氾濫）があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所等で安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



その場で雨が降っていなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。